

## 日本建設業連合会 広報活動の概要

### 建設業に対する社会の理解促進

建設業は、生活や産業活動における安全で安心な環境の確保、持続可能で活力ある経済社会の構築等に向けて建築物や構造物を提供するとともに、自然災害発生時には被災地において復旧・復興の実働を担う、わが国の基盤を支える基幹的産業であることについて、国民的な理解を醸成する必要がある。

日建連では、種々の媒体を活用して、建設業界の意見や主張の発信を効果的に行うとともに、一般市民、学生、子供等、国民各層に向けて、広報活動を積極的に展開する。

また、社会の要請に応え、業界団体として、工事現場における安全・衛生の確保や公衆災害防止の対策を着実に推進することとし、建設業のイメージ向上に向けて、その活動を積極的にアピールしていく。(日本建設業連合会 平成 24 年度事業計画より抜粋)

日本建設業連合会（日建連）は、日本建設業団体連合会、日本土木工業協会、建築業協会の三団体が合併し、平成 23 年 4 月に発足

### (1) 広報誌「ACE 建設業界」の発行

- ・平成 23 年 5 月創刊。毎月 2 万 4 千部発行
- ・官公庁、関係団体、一般企業、有識者、マスコミ等に配布

### (2) ホームページの運営

- ・三団体合併に伴い、平成 23 年度に現行ホームページを発足
- ・中高生を対象とした職業紹介サイト「13 歳のハローワーク公式サイト」に、「総合建設業特集」をアップ（日建連ホームページと相互リンク）

### (3) 市民現場見学会の開催

- ・土工協が平成 14 年 11 月より開始し、日建連が承継（平成 24 年 6 月末までに、約 5 万 6 千回の見学会を開催し、約 223 万人が参加）

### (4) 学生向け情報誌の発行

- ・土木・建築系大学生を対象とした情報誌の発行を検討中

#### (5) 科学技術館「建設館」の運営

- ・小中学生を対象に、建設技術に対する驚き、興味、関心を持たせ、科学の心を醸成することを目的とした出展

注) 科学技術館は、昭和 39 年 4 月に科学技術の知識を広く一般の人たちに普及する目的で、公益財団法人科学技術振興財団が設立した施設

科学技術館に「建設館」を出展し、遊具や実験等を通じて、建設業の役割、技術、ダイナミックス等を小中学生やその親が体験

#### (7) 各種出版物の発行

##### ①「建設業ハンドブック」の発行

- ・建設業の現状・実態をデータでわかりやすく解説し、建設業の理解促進を図ることを目的に、毎年 3 万部発行（広報誌「ACE 建設業界」の配布先に配布）

##### ②「確かなものを地球と未来に 日本の総合建設業」の発行

- ・総合建設業の役割や特長を紹介し、社会的理解を促進することを目的に発行（各種のイベント、会議等で配布）

##### ③「土木のせかい」の発行

- ・こどもを対象として土木事業に対する理解を促進することを目的に発行（市民現場見学会等で配布）

##### ④「防災・減災・応急対策への教訓」の発行

- ・東日本大震災から得られた教訓を広く共有し、あわせて、インフラや建設産業の役割に対する理解促進を目的に発行（各種のイベント、会議等で配布しているほか、津波被害が想定される全国の小中学校 1 万校に配布）

#### (8) 新春懇談会の開催

- ・有識者、報道関係者と日建連役員との交流を図ることを目的に、昭和 61 年 1 月より開催

#### (9) 報道対応

- ・原則毎月、記者会見（会長、土木・建築本部長等）
- ・受注統計、委員会活動成果等を適宜記者レク、公表